

# 学習指導案の形式（例） 小学校図画工作科

第○学年○組 ○ ○ 科学習指導案

平成○年○月○日（○）第○校時 ○○教室 指導者 ○○ ○○

1 題材名 ○○○○○○○○ A 表現（2）ア、イ、ウ、B 鑑賞（1）ア

◇内容との関連をもたせ、その題材で何をどうするのか分かるように実現するねらいを考慮し、工夫する。

2 題材の目標

- 「造形への関心・意欲・態度」に関する目標（例：～をしようとする。）
- 「発想や構想の能力」に関する目標（例：～することができる。）
- 「創造的な技能」に関する目標（例：～することができる。）
- 「鑑賞の能力」に関する目標（例：～することができる。）

◇学習指導要領で示された目標及び内容を踏まえて設定する。（必ずしもすべての観点を踏まえた目標を記入するというわけではない） ◇児童の立場で書く。

◇【共通事項】の内容に関する部分の書体を変えたり下線を引いたり強調するなどの工夫が考えられる。

3 題材の評価規準

造形への 関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
例：～取り組もうとしている。～味わおうとしている。	例：～を考えている。～を思い付いている。	例：～を工夫している。	例：～を感じ取っている。

◇評価規準の設定に当たっては、『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【小学校 図画工作】』（平成23年11月 国立教育政策研究所）等を参考にして、適切に設定することが望ましい。

4 指導と評価の計画（全○時間）

次	時	主な学習活動	評価の観点				評価規準及び評価方法
			関	発	技	鑑	
一	1	○主な学習活動	○				○評価規準 (評価方法)
	2	◇児童の立場で簡潔に書く。		◎			◇学習活動に応じて、評価規準を具体的に書く。 ◇評価方法も合わせて書く。 ◇毎時間の評価の観点は、一つか二つ程度に絞る。二つの場合は、評価の観点の○印等に対応するように評価規準及び評価方法を書く。 ◇児童の立場で書く。
二	1	◇四つの評価の観点がどのように位置付けられているかを○印等で示す。 ◇評価時期を考え、バランスよく評価する。 ◇一つの観点についてある程度長い区切りの中で評価することも考えられる。					

5 指導上の立場

- 単元観
- 児童観
- 指導観
- 研究主題との関連

◇指導者の立場で書く。

- ◇題材観・・・取り上げる題材の内容、既習事項との関連、今後の展開、その題材を取り上げる意義、題材・教材と児童の関係など。
- ◇児童観・・・児童の図画工作科における興味・関心・意欲、題材に関する知識・技能、既習事項の定着度など、前題材までの実態や本題材で育てたい望ましい児童像。
- ◇指導観・・・指導・支援の力点、学習形態、仮説、その他の配慮事項など、児童のよさや可能性を生かすような工夫や手だて。
- ◇研究主題との関連・・・研究主題の説明を簡潔に記述し、研究主題と授業研究における指導仮説を明確にして書く。

6 本時案（第○次 第○時）

(1) 本時の目標

- ◇指導計画に即して、本時の学習活動の目標を具体的に示す。
- ◇題材の目標や評価規準との整合を図る。
- ◇児童の立場で書く。

例：～をすることができる。

(2) 展開

学習活動	教師の指導・支援	学習評価
<p>1</p> <p>◇児童の立場で書く。</p>	<p>○例：～工夫する。～配慮する。～に気付かせる。</p> <p>◇学習活動に対して主となる指導・支援を書く。</p> <p>◇指導者の立場で書く。</p>	<p>◇児童の立場で書く。</p>
<p>2</p> <p>◇導入・展開・終末の学習過程に沿って児童の学習活動を書く。</p> <p>◇一人一人の児童が何をめあてに活動すればよいかをつかめるように具体的に書く。</p> <p>◇岡山型学習指導のスタンダードの単位時間の授業5（ファイブ）を参考にする。</p>	<p>めあて</p> <p>○</p> <p>◇児童の目的意識のまとめりや活動目標など、本時のめあてを示す。</p> <p>◇本時で何をどのように学ぶかの見通しがもてるようにする。</p> <p>○例：～することで、～できるようにする。</p> <p>◇学習活動に沿って、指導・支援の意図、工夫、手だてなどについて留意すべきことを具体的に書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・予想される児童の反応</li> <li>・児童一人一人の学習進度に応じた手だて</li> <li>・児童が主体的に、学習を進めるための手だて</li> <li>・資料提示の機会や方法</li> <li>・効果的な学習方法や学習形態の工夫・準備物 等</li> </ul> <p>◇学習活動と教師の指導・支援との関わりを対応させて書く。</p>	<p>◇本時の目標との整合を図る。</p> <p>評価の場面は1、2か所。</p> <p>◇評価規準を具体的に書く。</p> <p>◇評価の観点や方法を書く。</p> <p>〔評価の観点〕 （評価方法）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発言の内容</li> <li>・観察</li> <li>・アイデアスケッチ</li> <li>・作品</li> <li>・ワークシートの記述等</li> </ul>
<p>3</p>	<p>○例：～を一緒に確認することで、～できるようにする。</p> <p>◇「努力を要する」状況（C）と判断される場合における児童への手だての例を示す。</p> <p>◇「十分満足できる」状況（A）となるようにするための児童への手だての例を示す。</p>	
<p>4</p> <p>5</p>	<p>まとめ</p> <p>◇本時に何を学んだのかが分かるように整理し、めあてと対応したまとめの文章表現の例を示す。</p> <p>◇まとめは、本時の目標や学習内容に応じて柔軟に位置付ける。</p> <p>◇学習活動の関係で、ある程度長い区切りの中でまとめや振り返りを工夫することも考えられる。</p>	<p>○例：～を工夫している。 〔創造的な技能〕 （作品、ワークシート）</p>

◎「おおむね満足できる」状況（B）と判断する児童の姿の例

- ◇本時の評価規準に照らして、本時でねらう児童の姿を具体的に書く。